

| | | | | | |
|------|-------------------|-----------|-------------|--------|------|
| 講義名 | 教養特講 (航空英語へのいざない) | | | 授業形態 | |
| 担当教員 | 瀧田 実 | 開講期・曜日・時限 | 後期 金曜日 4 時限 | | |
| | | 単位数 | 2 | 履修開始年次 | 1 年生 |
| | | | ナンバリング・コード | LBA139 | |

主題と概要

近年観光立国に向けた官民一体の取り組みもあり、多くの外国人が日本を訪れるようになったが、外国人の人々との交流や意思疎通の基本となる英語は、現代社会に生きる我々の常識としてその必要性は高まっている。他方、実業界では、社員の実践的な英語習得が大きな課題にもなっている。本講義では、「仕事を通じて英語を学ぶ」を基本スタイルに、空港グランドスタッフやキャビンアテンダントが実際に使っているホスピタリティが発揮された英語表現を対話形式で学修する。接客における英語の丁寧な表現・言葉遣いを習得し、航空業界のみならず広く観光産業全体で対応可能な汎用性の高い英会話力を身につける。

到達目標

航空（観光）業界で求められている実践的な顧客対応が英語でできるようになる。
顧客に寄り添う「おもてなし・接客」に心が湧き、ホスピタリティの重要性を理解できるようになる。
航空に関する専門用語や業務知識が身に付き、チームでのロールプレイング学習を通じて就業につながる論理的思考力や協調性を高めることができるようになる。

提出課題

毎回の授業で課題小レポートの提出を求める。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

授業で課す小レポートは、次回授業の冒頭で要点を解説して前回の学習内容を復習する。また、優れたレポートを紹介するとともに、学生からの質問についても解説を行ない全員で共有し理解を深める。

評価の基準

授業への参画姿勢（出席状況、授業態度、小レポート内容等） 50%
理解度テスト 50%

履修にあたっての注意・助言他

観光業界への就職志望者、Hospitality英語の研究に意欲を持つ学生の履修を期待する。
授業では、受け身ではなく積極性を意識し参画姿勢を示すこと。
第1回目の授業に於いて、講義の進め方、評価方法、小レポートの概要等を説明するので必ず出席すること。

教科書

| | | | | |
|-----------------------|--------------|-----------|------|---------------|
| .Hospitality English. | (株)JANA総合研究所 | HALICO(株) | 2500 | 9784909730329 |
|-----------------------|--------------|-----------|------|---------------|

参考図書

.なし.

その他

授業中に適宜プリント資料を配付する。また、参考文献は授業内で紹介する。

授業計画

- ガイダンス
- Unit 1 : Ticketing for a Domestic Flight
- Unit 2 : Domestic Flight Check-in
- Unit 3 : International Flight Check-in
- Unit 4 : Airport Lounge Service
- Unit 5 : Assisting Transit Passengers
- Unit 6 : Baggage Issues
- Unit 7 : Welcome Aboard
- Unit 8 : Before Takeoff
- Unit 9 : In-flight Service
- Unit 10 : In-flight Sales
- Unit 11 : Passenger Care
- Unit 12 : Before Landing
- 航空業界の仕事とHospitality
- まとめ

授業形態（アクティブ・ラーニング）

| | |
|--------------------------------------|--|
| ア：PBL（課題解決型学習） | イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態） |
| ウ：ディスカッション、ディベート | エ：グループワーク |
| オ：プレゼンテーション | カ：実習、フィールドワーク |
| キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合） | |

準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

授業で学んだ内容（業務知識、専門英語、表現手法等）を理解できるようにし、音声教材でネイティブの音に慣れ、スムーズに発声表現できるまで反復練習に努めること。また、わからなかった箇所は質問事項を整理して次回授業に臨むこと。（復習2時間）
教本をもとに次回範囲の単語や意味、表現方法や文法を調べ、音声教材を用いて暗記・音読練習に努めること。（予習2時間）

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

到達目標を達成することで共通DPに貢献できる。単なるコミュニケーションツールではなく、ホスピタリティ溢れる英語表現を学修することにより、就業につながる資質を養い、高い顧客対応能力を発揮できる人材をつくる。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

毎回の授業に関する感想、質問、意見や課題小レポートの提出手法として Campus-Xs を使用。

実務経験の有無及び活用

「実務経験あり」
航空会社での勤務経験（本社部門、空港部門、海外駐在など）を活かして、実社会での様々なエピソードを交えながら観光産業で求められるホスピタリティ溢れた実践的な英語の必要性や重要性を伝えていく。

備考